回復期リハビリテーション病棟
ご案内

回復期リハビリテーション病棟ってどんなところ？
～してもらうではなく、自分でするところです！～

紀南病院　院長
加藤　弘幸

回復期リハビリテーション病棟医師
仲尾　貢二

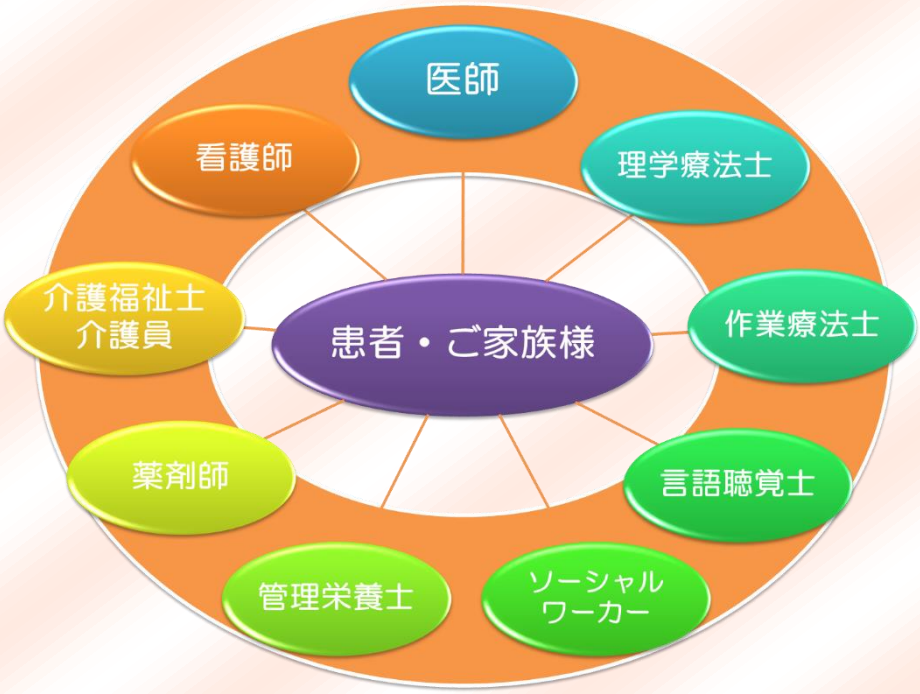
大きな病気や怪我をすると多くは『急性期病院』と呼ばれる病院で治療を受けることになります。

急性期病院は、命を助けることが大きな目的であるため生命の危機を脱すると退院を勧められます。

しかし、この時期、多くの患者様はまだ心身へのダメージが大きく残っており、すぐに元の生活に戻ることは難しく、退院を勧められたご家族様も困ってしまう場合が多くみられます。

『**回復期リハビリテーション病棟**』とは、そのような患者様を対象に医療の専門職がチームを組み、日常生活能力の向上及び**在宅復帰**を目的とした**リハビリテーションを集中的に行う**病棟です。

リハビリテーションチーム



専門性を活かした医療チームが、皆様を支援します!

看護師　白衣の天使！

・自分らしく過ごせるように、体調管理を重要視した日常生活を支援します！

理学療法士　自分の脚で歩く喜びを！

・『自分の脚で歩きたい！』そんな声にお応えします！

作業療法士　ココロ豊かに生き生きと！

・『トイレに自分で行きたい！』などの生活に密接した声にお応えします！

言語聴覚士　「話す・聞く・食べる」のスペシャリスト！

・『もう一度口からご飯を食べたい！』、『うまく話せるようになりたい！』
そんな声にお応えします！

ソーシャルワーカー　入院から退院までのお手伝い！

・入院から退院後の生活までを考えた総合相談窓口です。
お気軽にご相談ください。

介護福祉士・介護員　入院生活のサポート！

・個別性を重視した日常生活を支援します！

管理栄養士　おいしく健康な献立を考える料理人！

・栄養管理の行き届いた、暖かくおいしい食事を提供します！

薬剤師　薬のことならおまかせ！

・個々の患者様にあったお薬を服用していただけるよう、
薬物療法に関わっています！

回復期リハビリテーション病棟の対象患者

	対象疾患	発症から入院	入院期間
1	脳血管障害、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント術後、脳腫瘍、脳炎、急性脳症、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷等の発症後もしくは手術後、または義肢装着訓練を要する状態	２ヶ月以内	150 日
	高次脳機能障害を伴った重症脳血管障害、重度の頚髄損傷及び頭部外傷を含む多部位外傷		180 日
2	大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は膝関節の骨折又は二肢以上の多発骨折の発症後又は手術後の状態	２ヶ月以内	90 日
3	外科手術または肺炎などの治療時の安静により廃用症候群を有しており、手術後または発症後	２ヶ月以内	90 日
4	大腿骨、骨盤、脊椎、股関節または膝関節の神経、筋または靭帯損傷後	１ヶ月以内	60 日
5	股関節または膝関節の置換術後の状態	１ヶ月以内	90 日

上記の表の条件を満たした上で、当院では下記の項目についても入院判定会議で検討致します。

① 原疾患の治療が終了して在宅復帰を目指す方が対象となります。
② 身体的・精神的に集中的なリハビリテーションの実施が可能な方が対象となります。

※リハビリテーションの効果が期待できない、症状の不安定な方、濃厚な薬物治療や専門的な医学的治療を要する方は対象とならない場合があります。

※現在、言語聴覚士が不足しているため、集中的な言語聴覚療法（言語・嚥下訓練）が行えない場合もあります。

紀南病院回復期リハビリテーション病棟の特徴

私達スタッフは、

患者様が自分らしい生活を取り戻せるよう以下を率先して取り組みます

① 食事は食堂へ行き、口から食べて頂く取り組みを推進します。

② 洗面は洗面所で朝と夕方、口腔ケアは毎食後の実施を支援します。

③ 排泄はトイレで行い、オムツは極力使用しないよう支援します。

④ 入浴は週２回、なるべく浴槽で入れるよう支援します。

⑤ 日中は普段着で過ごし、更衣は朝と夕方に行えるよう支援します。

⑥ 看護計画を頻回に見直し、リハビリ計画に反映します。

リハビリテーションに伴うリスクについて

患者様の自立した生活に向けて積極的にリハビリテーションを行っていきます。
その中で患者様の活動性が向上する・向上させようとすることに比例して、
転倒、転落、誤嚥性肺炎などのリスクが伴います。

① **転倒**は歩行訓練中や階段昇降、エレベーター、屋外歩行中に多く起こります。
② **転落**はベッドから車椅子への移動、車椅子からトイレへの移動の際に多く起こります。
③ **誤嚥性肺炎**は飲み込みの機能が低下して、誤って気管に食べ物が入ったことで
生じることがあります。

しかしながら、**転倒、転落、誤嚥性肺炎**などのリスクを恐れて消極的になり過ぎると
活動性が低下して在宅復帰への道が遠ざかってしまいます。

当病院では定期的なカンファレンス（会議）で適切な介助方法、環境設定、
食事形態や食事の際の姿勢などを検討して事故防止に最大限努めますが、
同時に上記のリスクも存在することをご理解ください。

入院から退院までの流れ

当院急性期病棟

他の急性期病院

地域連携室

入院判定会議

回復期リハ病棟入院

入院時の説明

初期評価・訓練開始

機能訓練、日常生活動作訓練、病棟訓練

検討会

主治医によるリハビリテーション回診

退院前検討会・住宅改修指導

試験外出・外泊

退院前時指導

自宅退院

介護施設入所

回復期リハビリテーション病棟での生活

6：00

起床、顔を洗う、服を着替えるなどの朝の身支度
※介助が必要な場合は病棟スタッフがお手伝いします

7：40

食堂にて朝食提供、食後の歯磨き

9：00

リハビリ室での機能訓練または病棟訓練
入浴日であれば入浴します

11：40

食堂にて昼食提供、食後の歯磨き

13：00

リハビリ室での機能訓練または病棟訓練
入浴日であれば入浴します

17：40

食堂にて夕食提供、食後の歯磨き

18：30

着替えをして、寝る準備

21：00

消灯

病院から家への生活へ

回復期リハ病棟の特徴

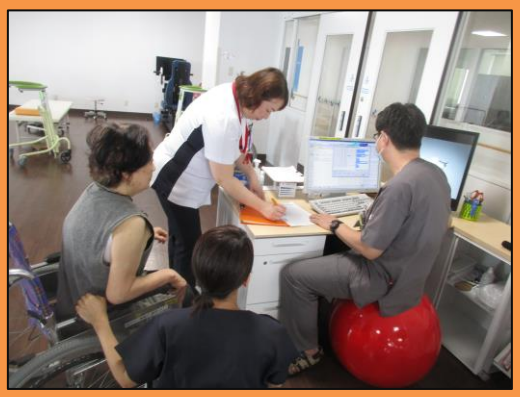
リハビリ室でのリハビリスタッフによる機能訓練にとどまらず、入院中の生活の場である病棟においても『廊下を歩く』『食事をとる』『服を着替える』『トイレに行く』『お風呂に入る』など日常生活全般を見据えた訓練を行っていきます。

また、ご家族様にもリハビリテーションの見学や介助方法の指導、退院に向けて試験的な外出・外泊を行うことなど、リハビリテーションの場面に積極的に関わっていただきます。退院が近づく頃には、ご自宅で自立した生活が送れるように、そして介護者の負担を軽減できるよう、本人・家族・担当ケアマネージャーとともに『介護保険サービスの利用』についても検討していきます。

主治医総回診

回リハ病棟医師による回診を定期的に行っています。

整形総回診



運動器疾患の患者様対象に週1回整形医師による回診があります。

カンファレンス

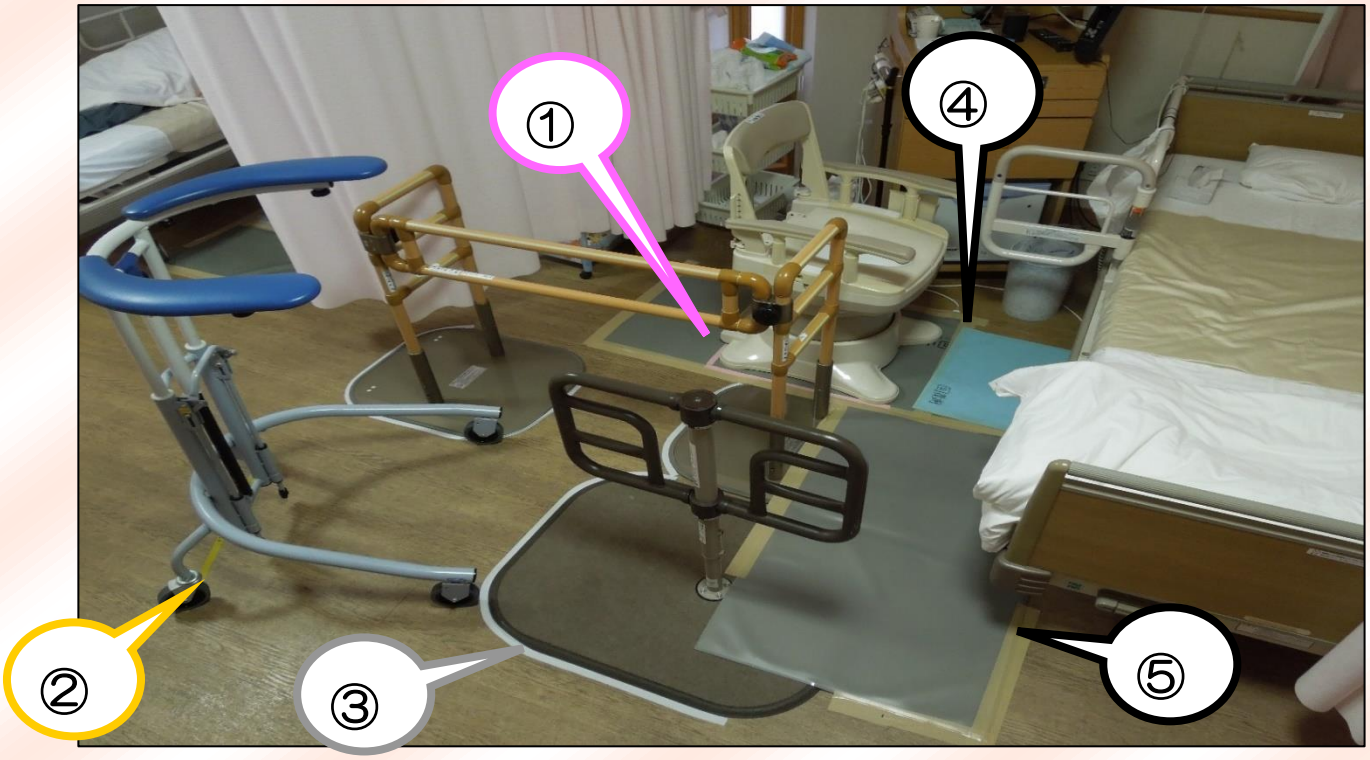
多職種が集まり、現状の報告を行い、情報共有し、今後の方針を検討しています。

ADL （日常生活動作）検討会開催

訓練室で出来ている動作を病室でもしている動作にする、介助方法を統一させる、環境設定を検討する、といった目的で ADL（日常生活動作）が改善・変化する際に開催しています。

療法士と病棟スタッフが集まり、実際に患者様の動作を観察・評価を行い、病棟（病室）での ADL（日常生活動作）を向上させるためにスタッフ間の連携を強化しています。

一人一人に合わせた室内環境



①ポータブルトイレ（ピンクテープ）	・安全に排泄動作が出来る位置に設定します
②固定型四点歩行器（黄色テープ）	・急に一人で歩きたくなった時に、自然と車椅子または歩行器が使える位置に設定します
③置き型手すり（白色テープ）	・一人で動き出す時の支えや伝い歩きで使える位置に設定します。
④滑り止めマット	・立ち上がり・方向転換時に、滑って転ばないように設定します
⑤センサーマット	・一人で行動するには危険な場合で、自由に行動してしまう場合に設定します

一般的に、転倒・転落や徘徊の危険性がある患者様は、事故を防ぐために身体束縛やベッド柵で囲んで対応する場合が多いです。

しかし、安全が確保できる反面、活動性が低下し、日常生活動作能力が下がり、在宅復帰への道が遠ざかってしまいます。

回復期リハ病棟では、患者様の能力に応じて、病室の環境を一人でもできる環境に設定することで、安全確保と活動性向上、日常生活動作能力が向上するような工夫に努めています。

ご家族様に準備していただくもの

前項でも説明させていただきました通り、当院の回復期リハビリテーション病棟は、
「家で生活する」「自立した生活を送る」ことを目的とした病棟です。

患者様には起床後、寝間着から普段着へ着替えていただきます。
また、お食事は病棟食堂にて召し上がっていただきます。

私たちは患者様にできる限り自宅に近い環境で、入院生活が送れるよう努めていきます。
そのため、以下の物を準備していただきますよう、お願いしております。

ご持参頂きたいもの

着替え類

□普段着（動きやすい服装）
　パジャマ上下　各３～４着
□肌着（必要な枚数）
□上着（夏薄手　冬厚手）・ひざ掛け等
□かかとのある動きやすい靴
□靴下（転倒防止のため、滑り止め付の靴下を推奨）３～４足
□紙オムツ、紙パンツ、尿とりパット、おしり拭き
　（必要に応じてご準備下さい）

入浴・洗面類

□タオル６枚、バスタオル４枚
□洗面具：
　くし、歯磨き用品、嗽用コップ、電気髭剃り
　（入れ歯の方は入れ歯入れ、洗浄剤等）
□お風呂用のバッグ（エコバッグでも可）
□ビニール袋（洗濯物を入れるのに使用）

飲料物類

□水分補給用の水・お茶などの飲み物
　※食事は紙パックのお茶が付きます。
　※ペットボトル飲料（水・お茶）推奨。
　※嚥下に問題のある方は病院でトロミ茶を準備しています。

その他

□マスク　　□ティッシュペーパー

注意
※持ち物には氏名をご記入ください
※ご家族等が面会に来られるのが困難な場合やクリーニング（有料）をご利用の方は、着替え・肌着・タオル類を多めにご準備下さい（クリーニング利用時は週１回の集配です。）
※入院時必需品レンタルシステム（寝間着、タオル、日用品等）もあります（有料）

自宅の状況に合わせたリハビリを提供

歩くことができるようになっても、ご自宅と病院とでは床の状態、段差の有無、障害物の有無など、生活環境に大きな違いがあります。

入院の際、ご家族様にご自宅の様子を撮影し、写真を回復期リハ病棟に提出していただきます。

ご提示いただいた写真を参考に、リハビリ内容を計画・立案し、実際の生活に近い環境の動作を練習していきます。

<u>リハビリ内容の一例）</u>

玄関に20㎝の段差 → リハビリにて20㎝の段差を使用して練習 → 20㎝の段差が登れるようになる！

また、ご本人様のお身体の状態に合わせた家屋環境にするために、手すりの位置や段差の解消方法などの住宅改修が必要な箇所も、私たちリハビリスタッフがアドバイスさせていただきます。

お手数をおかけしますが、ご協力のほどよろしくお願いします。

スタッフから皆様へ

患者様、ご家族様へのお願い事項

【入院時のお願い】

□当病院では、現在服用されているお薬が変更される場合があります。
また入院時に自宅からご持参頂きましたお薬は無くなり次第、当院主治医が処方致します。当病院で扱っていないお薬はこの限りではありません。

□病棟の都合により、急なお部屋移動をお願いさせて頂くことがあります。

【面会時のお願い】

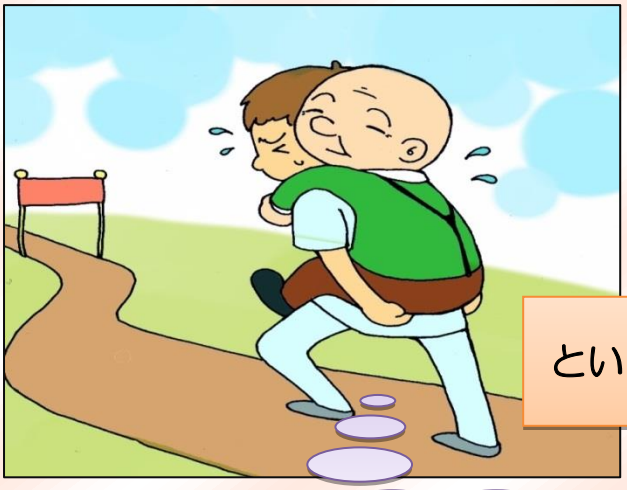
□車椅子への乗り移りや車椅子での移動介助などは、動作の安全性が確認できるまで職員と一緒に行なって下さい。

□食事制限や、飲み込みに問題のある場合があるので、飲食物の差し入れは職員に確認して下さい。

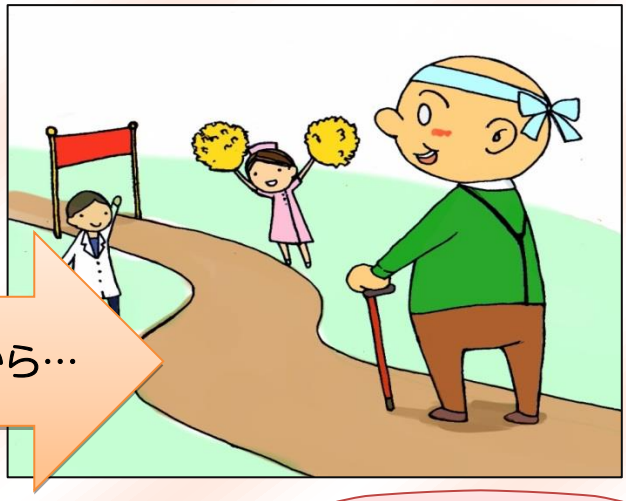
□廊下で歩行練習をされている患者様もいらっしゃいますので、お子様連れの面会の際は目を離さないようにしてください。

□他の患者様から頼まれごとがあれば職員にお知らせ下さい。

目標実現のために



という考えから…



リハビリのスタッフに
身体を治してもらおう

リハビリ・病棟スタッフと一緒に
目標を実現しましょう!!

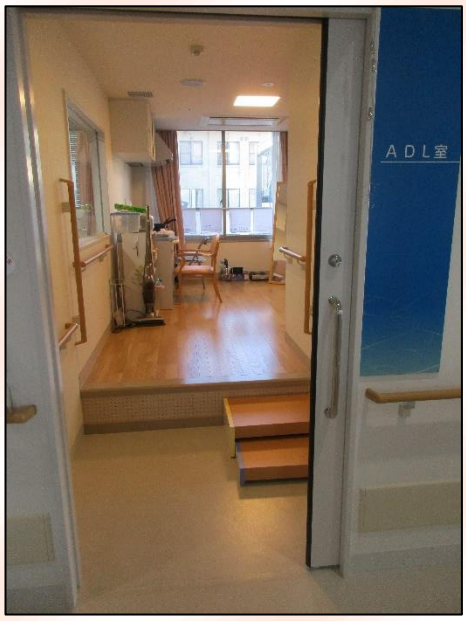
回復期リハビリテーション病棟スタッフ

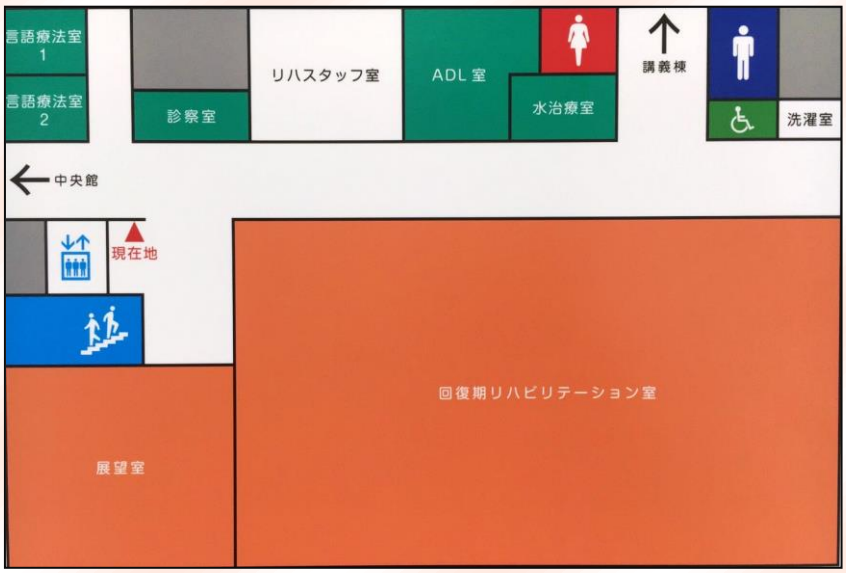
病棟スタッフ一丸となって患者様、ご家族様が生きがいを持って

生活出来るようにサポートしていきます。

回復期リハビリテーション室紹介

ADL 室（日常生活動作）





言語聴覚室

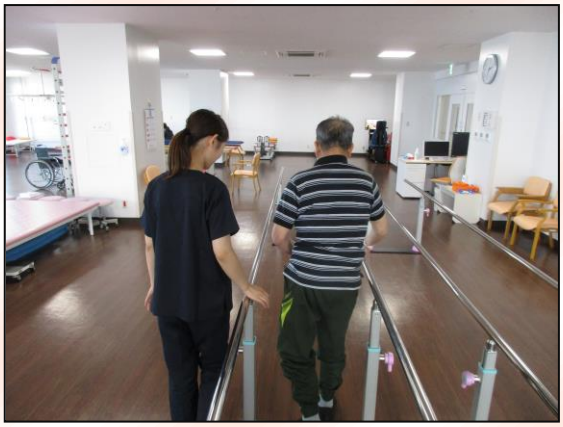
海の見える回復期リハビリテーション室

訓練内容紹介

最新マシンを使って筋力訓練を行います。

細かな手の訓練や
認知機能訓練を行います。

言葉の訓練や、書きとり、
高次脳機能訓練などを行います。



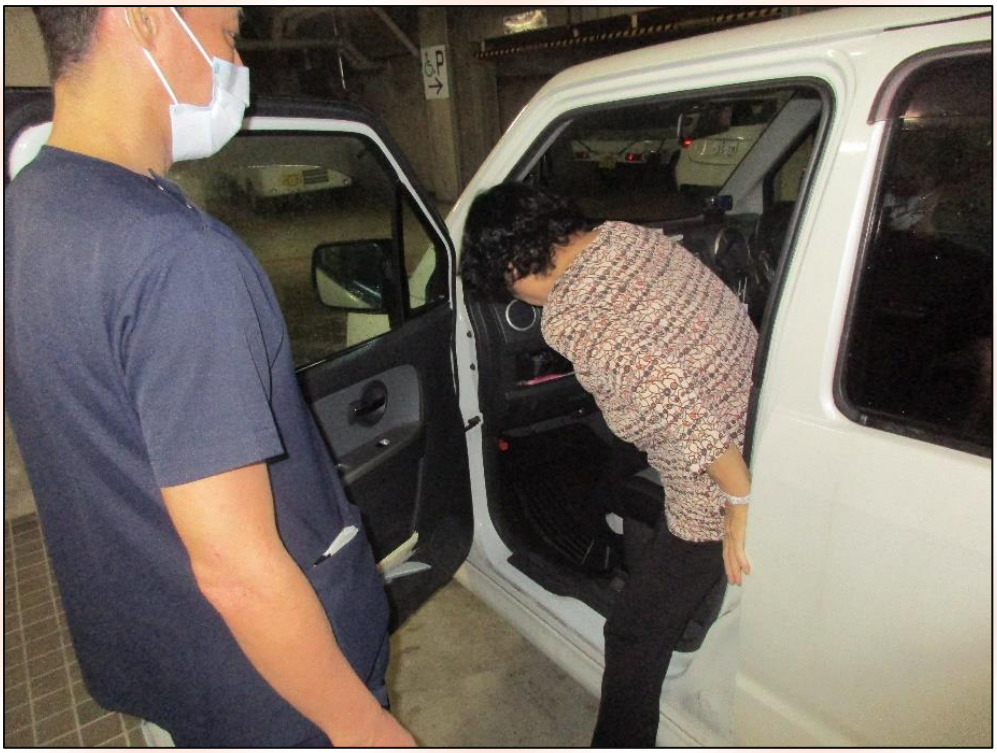
患者様のレベルにあった歩行訓練を行い、
日常生活動作の向上につなげます。

靴下の着脱など日常生活動作の
向上を目指して訓練を行います。

洗濯物や掃除、調理など生活に
必要な訓練を行います。

屋外での歩行訓練や、買い物の訓練など、
退院後患者様が必要になってくる活動を
訓練していきます。

必要に応じて実際に道具を使ったり、
現場を想定した職業訓練を行い、
職場復帰を目指します。



必要に応じて実際の車を使用し、乗り降りの訓練をします。

必要に応じて自転車に乗る訓練も行います。

リハ機器紹介

～エルゴメーター～

自転車のような足漕ぎ運動を行う器具です。

持久力アップや足の筋力を
鍛える為に行います。

皆さん七里御浜を眺めながら
頑張ってくれています。

～トレッドミル～

一般的にランニングマシーンと
言われている器具です。

その名の通り、歩いたり走ったりして
持久力アップや足の筋力をつける為に
使用します。角度をつけて坂道を想定し
た練習も出来ます。

シェイキングボード

赤とグレーの床が前後に揺れて、
バランス訓練時に使用します。

レッグプレス

大腿四頭筋・大殿筋・下腿三頭筋などの立ち上がり動作や歩行に必要な筋力を鍛える器具です。

レッグエクステンション

大腿四頭筋の筋力を鍛える器具です。

レッグプレスと同様に、歩行や立ち上がり動作などに必要な筋肉です。

ヒップアブダクション

中殿筋や大腿筋膜張筋を鍛える器具です。

立っている時のバランスや歩行時の安定性をアップさせる筋肉を鍛えることが可能です。

スマートトレーナー

船漕ぎ運動を行い、手足の様々な筋肉を
鍛えられる器具です。

5～10 分程度の運動も可能で、持久力アップにも
使用します。

左の画像に映っているのはゲームをしながら運動
している様子です。

みなさん楽しみながら運動していただいています。

アイビス

弱い電気を使用し、皮膚の上からパッドを張って、
痛みを抑えたり筋力向上に用いる神経や筋肉に
刺激を与える機器です。

In Body（インボディ）

筋肉量、脂肪量、水分量などを毎週計測し、
栄養状態の評価を行いながらリハビリを進めています。

主治医総回診の際に主治医にも確認してもらっています。

回復期リハビリテーション室セラピスト達

お問い合わせ

紀南病院組合立　紀南病院
地域連携室　TEL 05979-2-0500